

地域志向のキャリア形成を目指した 高校生のまちづくり学習の試み

宇佐美 誠史¹・秋田 瑞樹²・高屋 智未²

¹正会員 岩手県立大学総合政策学部准教授 (〒020-0693 岩手県滝沢市菓子152-52)
E-mail:s-usami@iwate-pu.ac.jp

²学生非会員 岩手県立大学総合政策学部 (〒020-0693 岩手県滝沢市菓子152-52)
E-mail:g041p001@s.iwate-pu.ac.jp

教育現場において、地域人材の育成やキャリア形成を図ろうとして、若者のまちづくりへの参画を促進させている事例が多々見られる。「まちづくり学習」のような地域に着目した学習プログラムは、人材育成だけでなく、地域活性化や地域課題の解決に効果があると考えられる。本研究は、岩手県盛岡市内の商業系学科の高校生を対象として、著者らの「まちづくり学習」を受講してもらい、地域への関心が高まったか、自己成長を実感したかなどを把握し、自分の能力を活かしながら地域に貢献できる人材育成の重要性を検討した。その結果、進路選択において地域貢献を視野に入れている生徒は、自分のやりたいことをおこなったり、自分の能力を活かしたりするなど、自己実現させることを重視していることがわかった。

Key Words : high school student, community planning, career formation, self growth

1. はじめに

地域への参画を促すために、まちづくり学習が全国で展開されている。岩手県内でも、「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」が実施されている。担い手の育成により、地域活性化等の効果が期待されている。本研究は、まちづくり学習の受講生の進路選択に着目し、地域人材育成の可能性を探る。

教育現場でのまちづくり学習は、幅広い分野で実施されている。特に、土木・建築分野では、多くの蓄積がある。整理すると、1990年代から、まちづくり学習のあり方を模索する研究¹⁾が多くみられた。2002年以降、総合的な学習の時間でのまちづくり学習の効果を明らかにした研究²⁾がみられた。さらに、大学生や市民を対象としたまちづくり学習の効果を明らかにした研究³⁾もみられた。

まちづくり学習の研究事例は、受講生が外部の関係者と関わる機会が多い特徴がみられる。教育現場の受講生にとって、自らの進路について考える契機になるだろう。しかし、まちづくり学習とキャリア形成の関連に着目した研究はほとんどみられない。また、小中学生を対象とした研究が多く、高校生を対象とした研究はほとんどみられない。進学か就職かを選択する高校生を対象とした研究により、地域人材育成の可能性を明らかにできると考える。

2. 高等学校授業でのまちづくり学習実践

岩手県盛岡市内のA高校の商業系学科において、2016年度から3年生約80名が受講する「課題研究」の授業を活用し、盛岡市内のまちづくりにおける課題を、いくつか取り上げて調査研究を行い、結果と提言を市長や市の幹部に報告している。2017年度は、4月に、4つの大きなテーマ「大通り商店街」「市の公共施設」「公共交通」「肴町界限」を示し、20グループがそれぞれ選択、その後、個々に調査研究を実施した。その後は、進捗状況に応じて、1月の発表会までに5回の授業(1回あたり、50分@3コマ)を行った。内容は、動機付け、資料収集、現地調査、アンケート、プレゼン資料作成についての解説と進捗状況のチェックである。

3. 受講生の地域や進路に対する意識調査

まちづくり学習を受講した高校生の、地域や進路選択の意識を把握するため、アンケートを実施した(表-1)。

まちづくり学習を受講したA高校の生徒の卒業後の進路は、大学や専門学校への進学が合わせて55%、就職が45%である(図-1)。また、受講者の居住地域に関して、岩手県のほとんどの地域で、調査時の居住者(図-2)よりも、卒業後の居住者(図-3)の方が少ない。高等学校

卒業後、約 15%の生徒が県外へ居住予定ということがわかる。

卒業後の進路選択で重視したことに関しては、「やりたいことができること」と回答した生徒が最も多く、次いで「自分の能力が活かせること」が多い(図-4)。またこれらの生徒は次に「地域に貢献できること」とも回答しており、地域貢献についても視野に入れている。

表-1 アンケートの概要

調査名	「課題研究」で行った「まちづくり学習」を受講しての意識調査
調査・回収方法	まちづくり学習受講者にアンケート票配布、記入後その場で回収
調査日時	2018年1月24日
調査対象	まちづくり学習を受講した岩手県盛岡市内のA高校の商業系学科生徒
回収票	80人中75人
主な質問内容	① 自己成長についての評価(情報収集能力、傾聴力、要約力、発信力、牽引力) ② 地元やまちづくりに対する意識(地域参加意欲、地元の好感度等) ③ 進路選択について(卒業後の進路、卒業後の居住地、進路選択で重視したこと等)

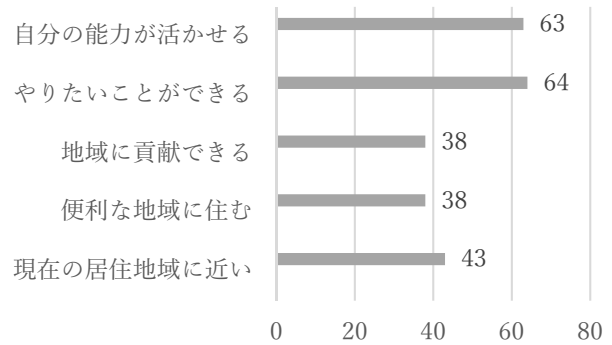


図-4 卒業後の進路選択で重視したこと

4. まちづくり学習の効果

自己成長について、ほとんどの項目で受講後に成長を実感した生徒が多かった。

「身の回りの物事に対して問題意識を持てるようになったか」(図-5)や「情報収集能力が身についたか」(図-6)、「自分の考えをまとめられるようになったか」(図-7)などの項目で特に成長を実感している。中でも「周りの意見を聞くようになったか」(図-8)の項目が「そう思う」の割合が高く、傾聴力向上の実感が最も大きい。

次に地域への意識に関して、授業を受ける以前は、53%の生徒がまちづくりに関心がなかったと回答している(図-9)。しかし、まちづくり学習受講後は、半数以上が地元への好感度が上がり、地域への参加意欲の向上もみられた(図-10)。

また、授業態度と地域への意識の関連についてクロス集計を行った。その結果、楽しく授業を受けたと回答した生徒の8割が地域の為に活動したいと回答している(図-11)。さらに、楽しく授業を受けたと回答した生徒ほど、授業後に今まで以上に地元が好きになるという傾向がみられ(図-12)、また、地元が好きになった生徒ほど地域の為に活動したいと思っている傾向もみられる(図-13)。

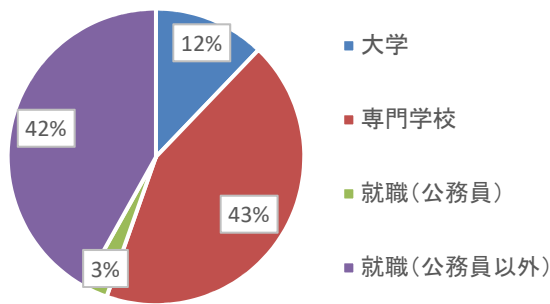


図-1 卒業後の進路

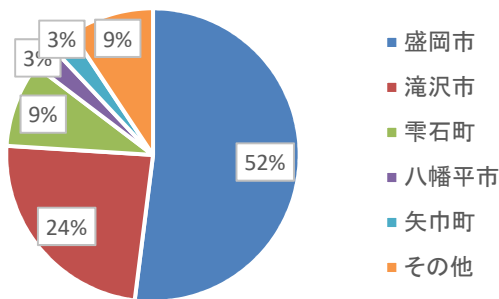


図-2 回答者の住んでいる市町村

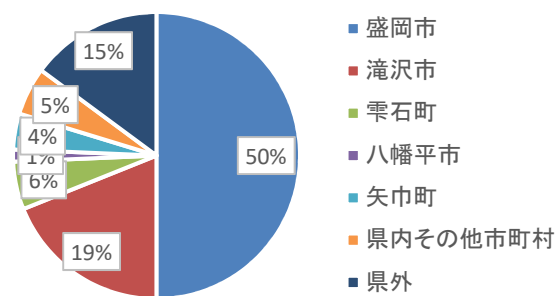


図-3 卒業後の居住地

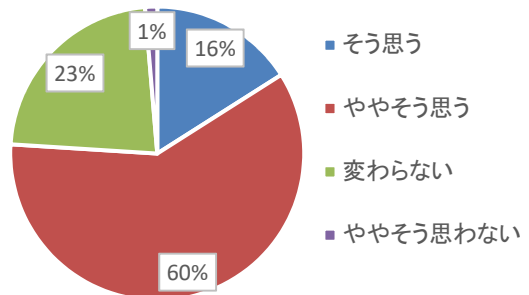


図-5 身の回りの物事に対して問題意識を持てるようになったか

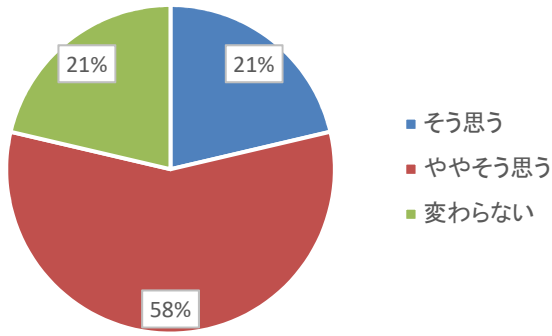


図-6 情報収集能力が身についたか

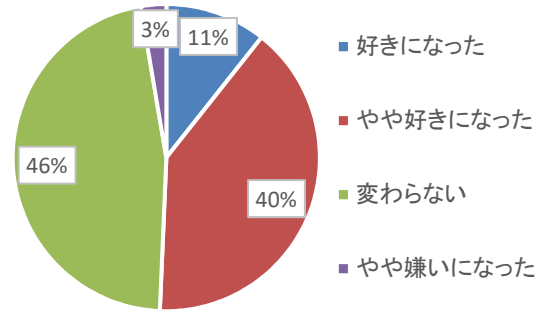


図-10 授業を受けて地元が好きになったか

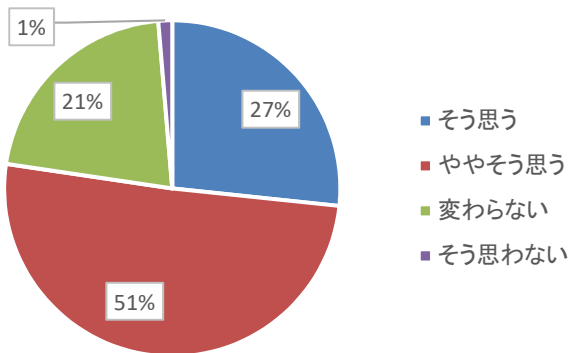


図-7 自分の考えをまとめられるようになったか

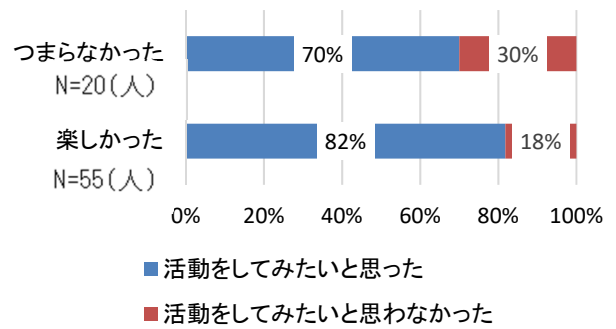


図-11 「楽しく授業を受けたか」と「授業を受けて地域のために何か活動してみたいと思ったか」

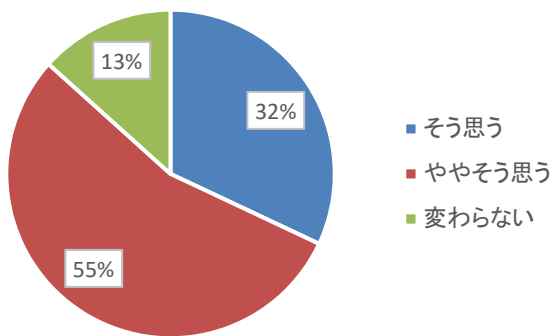


図-8 周りの意見を聞くようになったか

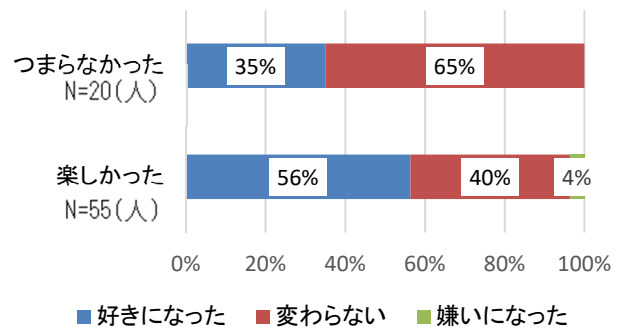


図-12 「楽しく授業を受けたか」と「授業を受けて、地元が今まで以上に好きになったか」

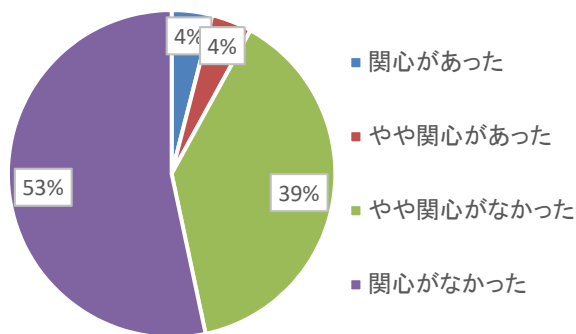


図-9 授業を受ける以前はまちづくりに関心があったか

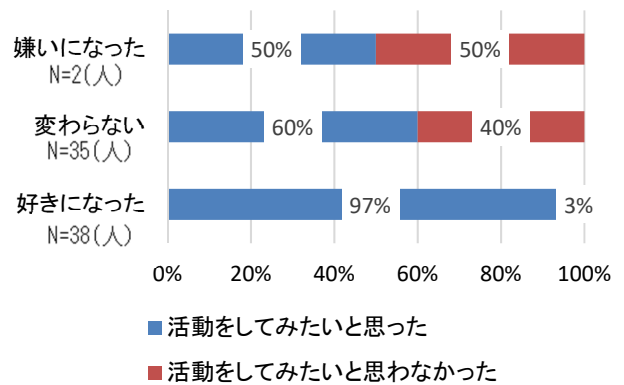


図-13 「地元のために何か活動してみたいと思ったか」と「地元が好きになったか」

5. 地域への関心や自己能力が向上した生徒の特徴

質問項目のすべてを変数に入れて、クラスター分析 (Ward 法) を行った結果、3 つのグループに分けることができた。

グループごとの回答者の属性として、図-14 では卒業後の進路について、図-15 では卒業後の居住地域についての集計結果を示す。図-14 によると、グループ 1 は専門学校への進学が最も大きく、グループ 2 は大学進学が最も大きい。グループ 3 は民間企業への就職の割合が最も大きい。また、図-15 を見ると、グループ 1 から 3 のいずれにおいても、県内が最も多いが、特にグループ 3 が最も県外での居住を予定していることがわかる。

これら 3 つのグループを、「地域志向」「自己成長の実感」「自己に視点を置いた進路選択」の 3 つの観点から見ていき、生徒の意識の傾向や特徴を読み取っていく。

(1) 地域志向

地域志向に関して、図-16 ではグループごとの地元への好感度を示し、図-17 ではグループごとの地元への参加意欲を示した。図-16 において「好きになった」「やや好きになった」の回答が最も多かったのはグループ 2 である。図-17 についても、グループ 2 において「そう思う」と回答した割合が最も高い。このことから、グループ 2 は地域志向が高い生徒のクラスターであることが推測される。

(2) 自己成長の実感

自己成長の実感に関して、「自分の考えをまとめられるようになったか」(図-18)、「自分の考えを相手に伝えられるようになったか」(図-19)、「リーダーシップをとれるようになったか」(図-20)、「周りの意見を聞くようになったか」(図-21)、「情報収集能力が身についたか」(図-22)の集計結果を示した。

図-18 から図-22 までのすべての項目で、「そう思う」と回答した割合が最も高かったのはグループ 2 であり、3 グループの中で最も授業後に自己成長を実感している。グループ 1 では「リーダーシップをとれるようになったか」を除いたすべての質問で、「そう思う」「ややそう思う」の回答が半数以上であった。

また、グループ 3 では、「周りの意見や考えを聞くようになった」「自分の考えを相手に伝えられるようになった」「情報収集能力が身についたか」で「変わらない」と回答した割合が 3 グループの中で最も高かった。

これらのことから、グループ 2 の学生は他のクラスターと比較して、まちづくり学習によって自己成長を実感したことがわかった。

(3) 自己に視点を置いた進路選択

自己に視点を置いた進路選択に関して、図-23 では卒業後の進路選択において、自分の能力が活かせることを重視するかについての集計結果を示している。「そう思う」「ややそう思う」と回答した割合が最も大きかったのはグループ 2 である。

また、図-24 では進路選択においてやりたいことができることを重視するかについての集計結果を示している。「そう思う」「ややそう思う」と回答した割合が最も多いのは、グループ 1 である。

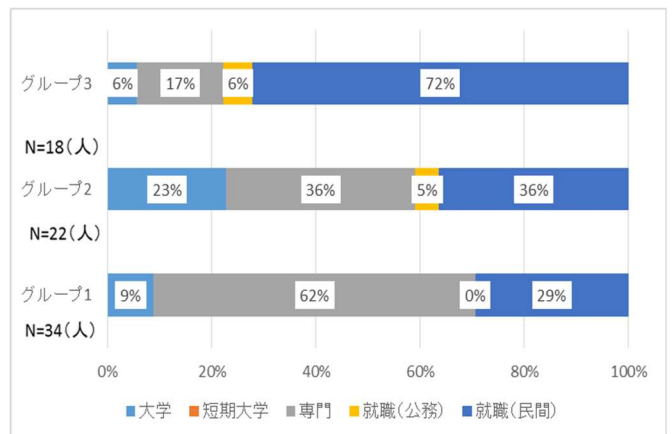


図-14 グループごとの卒業後の進路

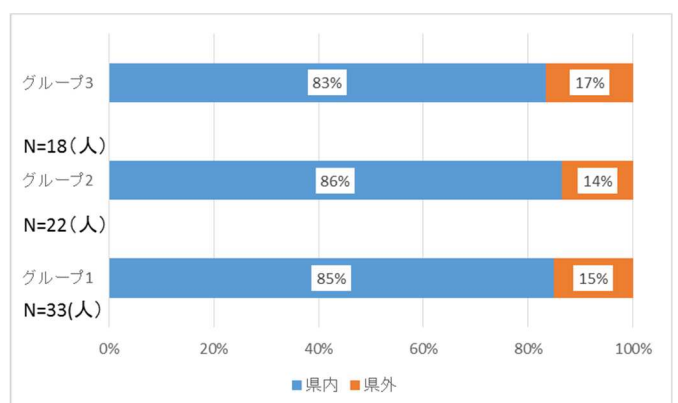


図-15 グループごとの卒業後の居住地域

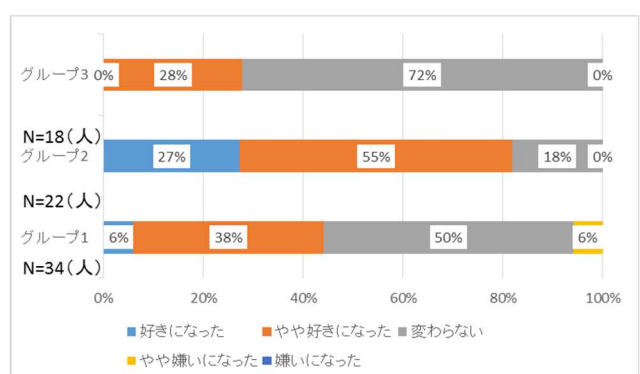


図-16 グループごとの地元への好感度 (地元が好きになったか)

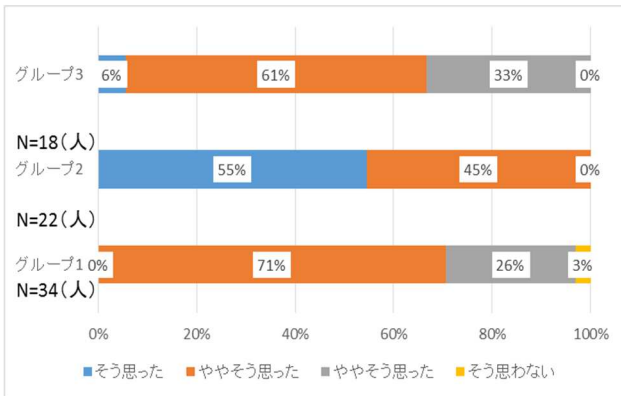


図-17 グループごとの地元への参加意欲
(地元のために活動してみたいと思ったか)

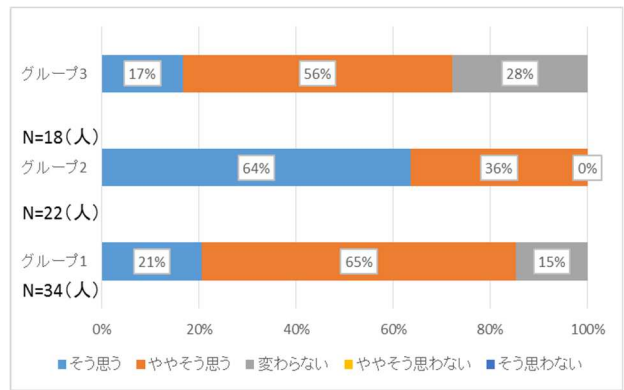


図-21 周りの意見を聞くようになったか

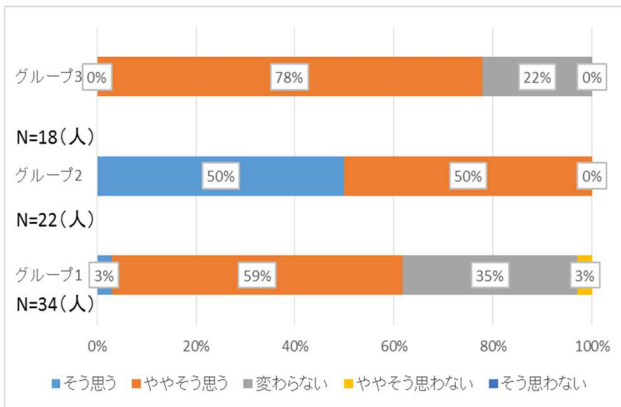


図-18 自分の考えをまとめられるようになったか

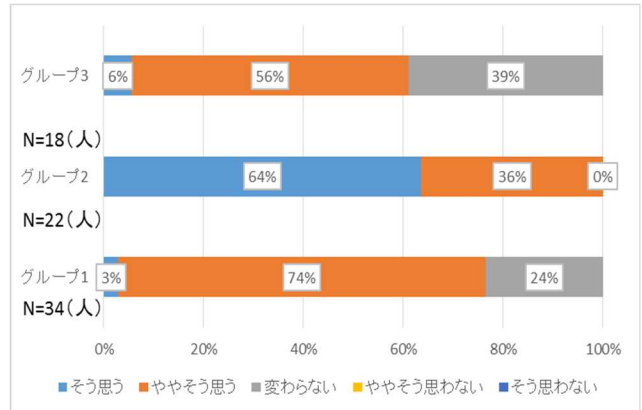


図-22 情報収集能力が身についたか

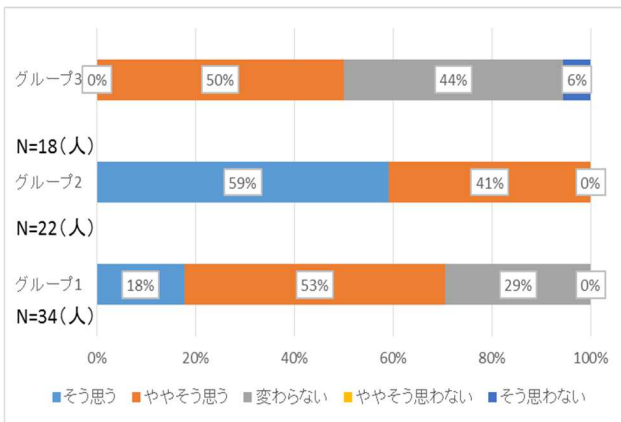


図-19 自分の考えを相手に伝えられるようになったか

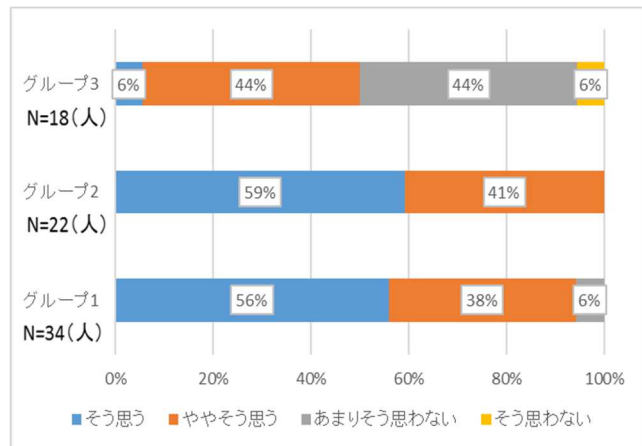


図-23 進路選択で重視したこと(自分の能力が活かせること)

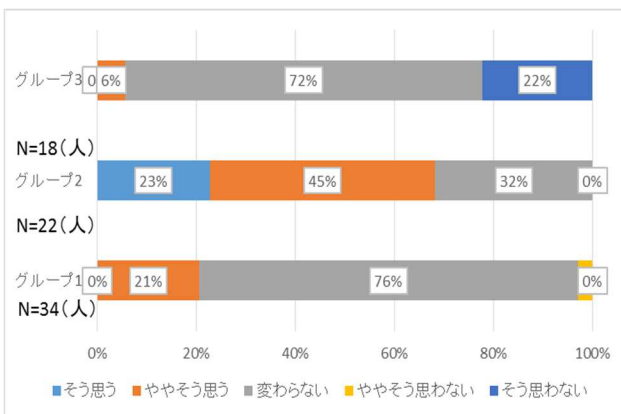


図-20 リーダーシップをとれるようになったか

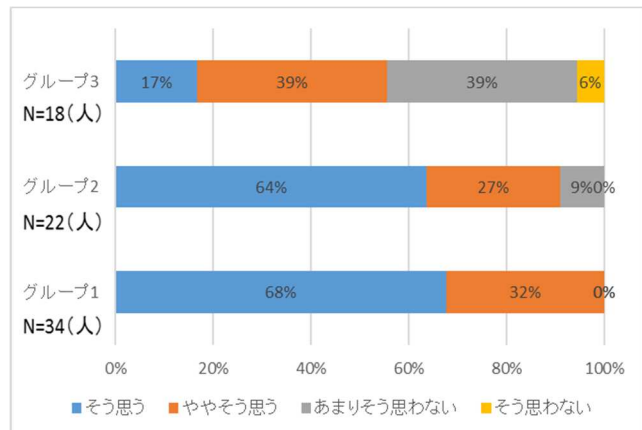


図-24 進路選択で重視したこと(やりたいことができること)

(4) 各クラスターの特徴

3つの観点からの調査結果をもとに、それぞれのクラスターの特徴をまとめたものを表-2に示す。

今回得られた特徴として、地域参加意欲や自己能力がやや向上し、自己に視点を置いた進路選択を重視していたグループ1は、専門学校への進学率が最も高い。グループ2は大学進学率が最も高く、地域参加意欲や地域好感度が向上したと回答した割合が3グループの中で最も大きい。さらに、グループ2は、自己成長の実感を得られた割合も最も大きい。この結果から、地域への関心や自己能力が向上した受講者の特徴として、進学を予定している生徒であることが明らかとなった。

6. まちづくり学習の可能性

本研究の調査により、まちづくり学習による受講生の自己能力向上や地域人材育成の可能性が明らかとなった。

授業後のアンケートで、まちづくり学習を楽しく受講したと回答した生徒ほど、地域への好感度が向上するという結果が得られ、さらに地域への好感度が向上した生徒ほど、地域への参加意欲の向上が見られることがわかった。

そこで、まちづくり学習で生徒の地域への関心を高めるには、生徒が楽しいと思える授業の展開が必要であると考えられる。また、今回のように授業の成果を地域に提言することで、地域への参画意識をさらに醸成できる可能性があり、高校生であれば自治体に対して意見を提案する能力を持っていると考えられる。

このようにまちづくり学習には、生徒の自己能力の向上や地域人材の育成に大きく貢献できる可能性があるため、積極的な取り組みを推進していく必要がある。

表-2 各クラスターの特徴

		グループ1(84人)	グループ2(92人)	グループ3(18人)
卒業後 意識の傾向	進路	専門学校への進学割合が最も大きい	大学進学率が最も大きい	民間企業への就職の割合が最も大きい
	居住地	岩手県内 85%	岩手県内 86%	岩手県内 83%
	地域志向	地域参加意欲やや向上	地域参加意欲や地域への好感度の向上が他グループより大きい	地域参加意欲やや向上
自己成長の実感	自己に視点を置いた進路選択	自己に視点を置いた進路選択を重視している傾向	自己に視点を置いた進路選択を重視している傾向	自己に視点を置いた進路選択を重視している割合が小さい
	自己成長の実感	牽引力を除いた全ての質問で「そう思う」「ややそう思う」の回答率が半数以上	全項目で、「そう思う」の回答割合が他のグループより大きい	傾聴力、発信力、情報収集能力について「変わらない」と回答の割合が他グループより大きい

7. おわりに

本研究では、「まちづくり学習」と「進路選択」に着目し、まちづくり学習を受講した生徒の地域や進路選択に対する意識を明らかにすることを目的とし、まちづくり学習を受講生である高等学校の生徒が、地域への関心が高まったか、自己成長を実感したか意識調査を行った。

その結果、まちづくり学習を受講後に、生徒の多くが傾聴力や発信力等のスキルが向上したことを実感した。また、受講以前にまちづくりに関心のなかった生徒が半数を超えていたが、受講後は、地域参加意欲や好感度の向上がみられた。さらに、クラスター分析(Ward法)でグループ分けを行い、それぞれのグループの意識の傾向や特徴を探った。まちづくり学習により、地域への関心や自己能力が向上した受講者の特徴として、進学を予定している生徒であることがわかった。

進路選択において、地域貢献を視野に入れている生徒は、自己の能力にも視点を置いた進路を重視している傾向がある。よって、自己の能力の向上を実感し、地域への貢献意欲も高められたグループ2のような生徒をさらに増やしていくことが重要なのではないだろうか。そのために、進学を希望している生徒が多い学校及び学科での展開や、生徒が楽しいと感じながら、地域の魅力を再認識することができる授業の展開を検討することが大切になるだろう。

そして、本研究の今後の課題として、まちづくり学習の効果を比較・検証できるような研究が必要である。まちづくり学習は継続的に行うということと、まちづくり学習を受講していない生徒の意識調査も行うこと、また、卒業後に実際にどの程度地元へ貢献できているのかを追跡調査することで、より効果的なまちづくり学習の考察が可能になり、地域人材の育成に大いに貢献できると考える。

参考文献

- 1) 三輪千夏, 尹祥福, 中川義英: 小学校におけるまちづくり学習のあり方, 土木計画学研究・講演集, 16巻, pp.61-68, 1999.
- 2) 柳沼葉子, 市川健太, 岩倉成志, 野中康弘: 日本橋常磐小学校における「まちづくり学習」の授業効果の持続性-授業実施5年後のパネル調査-, 土木学会論文集, vol.69-1, pp.9-20, 2013.
- 3) 野澤千絵: 市民のためのまちづくり学習の効果と課題に関する研究-全国人口1万人以上の自治体主催のまちづくりリーダー・コーディネーター養成講座を対象に-, (社)日本都市計画学会都市計画論文集, No.40-3, pp.559-564, 2005.